

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立諸富南小学校

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査(国語・算数・数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
  - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

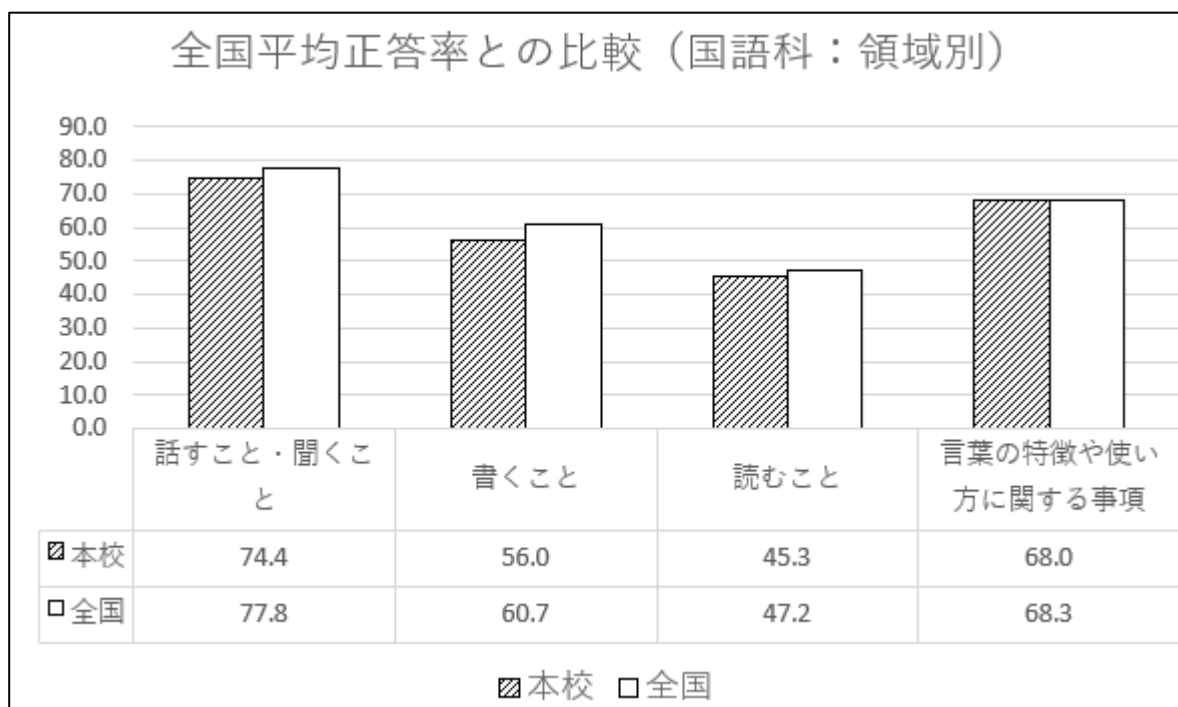
| 児童に対する調査                                                            | 学校に対する調査                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査<br>(例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など | 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査<br>(例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など |

#### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

## ■ 調査結果及び考察

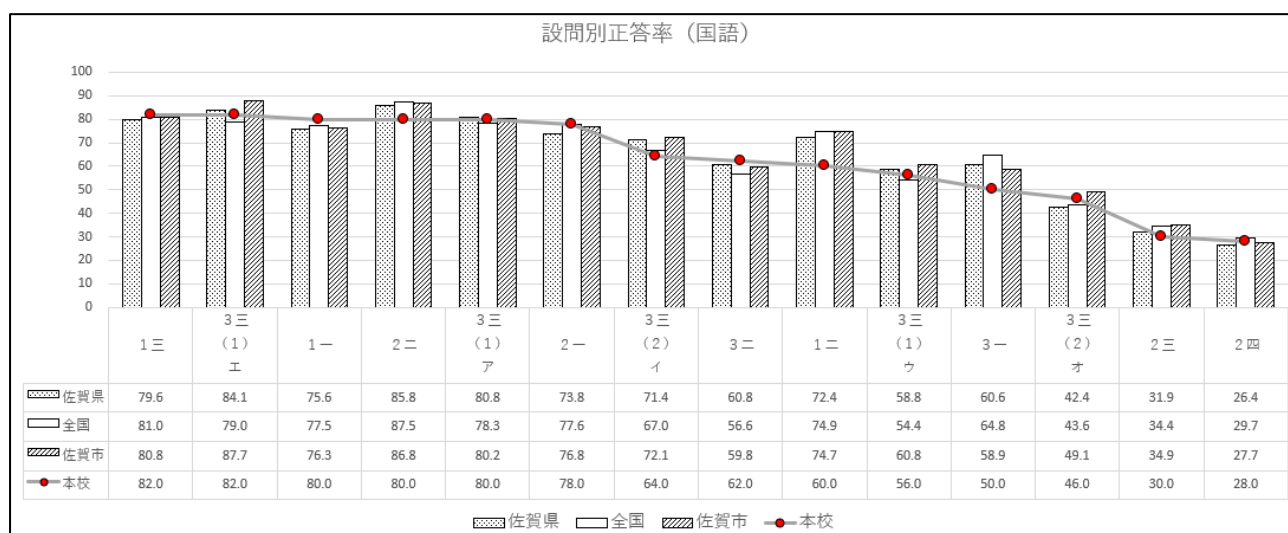
### 1 国 語



#### (1) 結 果

国語科全体では、全国正答率 64.7% に対して、本校の正答率は 63.0% であり、1.7 ポイント下回りました。ほぼ全国正答率と同等です。領域別では、「書くこと」「話すこと・聞くこと」に課題があります。設問別正答率では、全 14 問中、8 問が全国正答率を上回りました。

領域別正答率では、本校の国語の正答率は 4 つの領域とも下回りました。「話すこと・聞くこと」では 3.4 ポイント、「書くこと」では 4.7 ポイント、「読むこと」では 1.9 ポイント、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では 0.3 ポイントそれぞれ下回りました。最も下回ったのは、「書くこと」の領域でした。



#### (2) 成果と課題

成果が見られたのは、1 一「目的に応じたスピーチの構成を考える」、3 二「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」、1 三「資料や意図に応じ、資料を使って話す」、2 一「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」設問です。これらは、全国・佐賀県・佐賀市の平均正答率をそれぞれ上回りました。

特に課題が見られたのは、1 二「資料を用いた目的を理解する」、3 一「自分の主張を明確に伝える文章構成を考える」の設問で、全国正答率を 15 ポイント近く下回りました。その他、2 二「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」、2 三「目的に応じ、文章と図表を結びつけて必要な情報を見つける」、3 三(2)イ「文の中における主語と述語の関係を捉える」設問にも課題があります。これらは、全国・佐賀県・佐賀市の平均正答率をそれぞれ下回りました。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

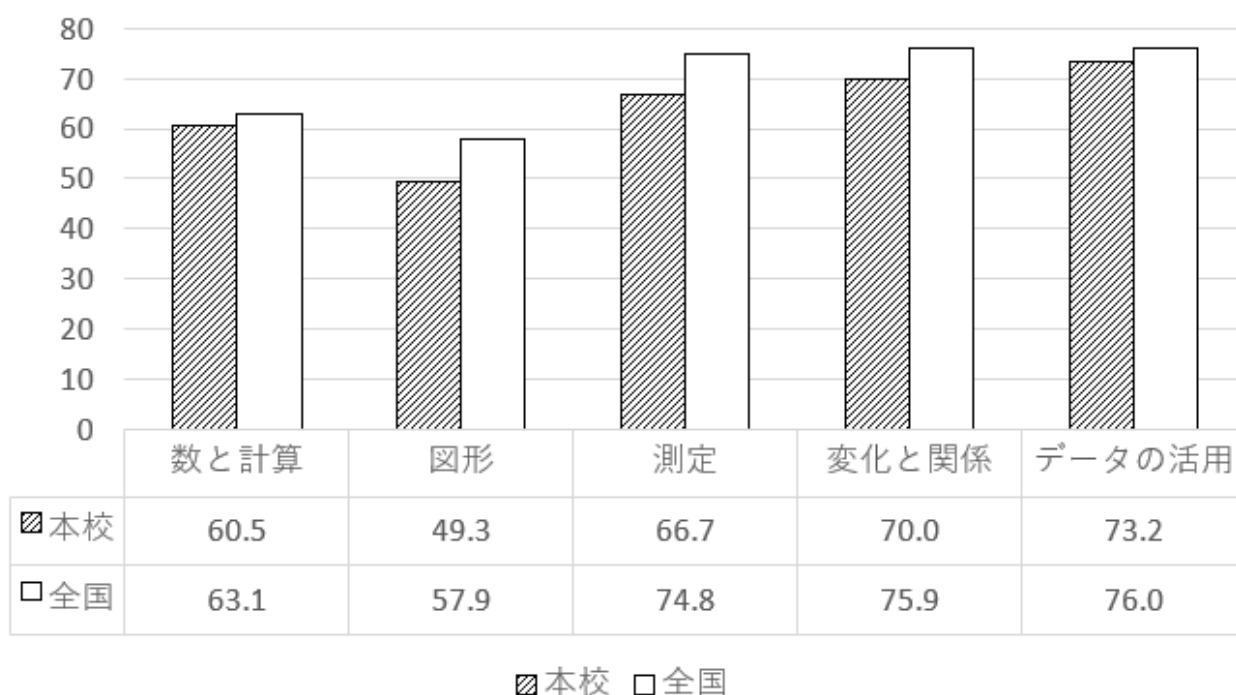
- 読書活動を充実していきます。朝の 5 分間読書や、図書委員を中心に読書イベントをしたり、こんぺいとう（ボランティア）による読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。
- 読書タイムでは、図書室からの「おすすめ 50 冊」の本を中心に読んだり、物語やエッセイなど文章量のある本を読んだりして、読書の習慣化や読解力の定着を図っています。
- 週 1 回の聴き合いタイムでは、低・中・高学年ごとにねらいを設定し、ペアやグループでテーマに沿って聴き合い活動をしています。国語だけではなく、他教科でも聴き合い活動を取り入れ、自分の考えを深めたり広げたりしています。
- 子どもが主体的に学ぶことができるように、授業の在り方を工夫します。主体的・対話的で深い学びをめざして、子供同士が話し合いながら、学んでいくことができるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます。
- 一人一台学習用パソコンを活用し、一人ひとりの興味・関心や習熟度別に応じて、繰り返し学習して習熟を図ったり、発展的な問題にチャレンジして活用力をつけたりしています。

#### 【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましょ。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていましょ。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

## 2 算数

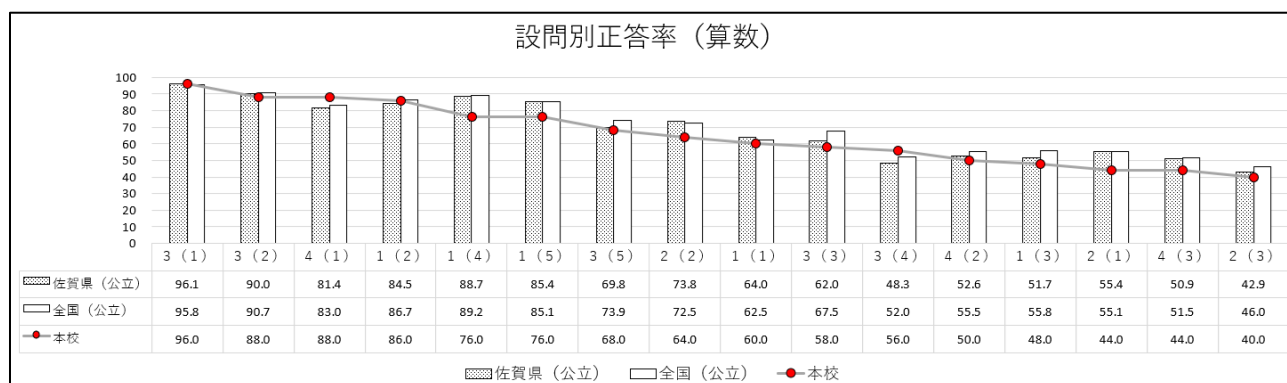
### 全国平均正答率との比較（算数科：領域別）



#### (1) 結果

算数科全体では、全国平均正答率 70.2% に対して、本校の正答率は 65.0% であり、5.2 ポイント下回りました。全国平均を有意に下回る結果といえます。本校の無回答率は、すべての設問で全国が無回答率を下回っていますので、課題解決に向けて意欲的に問題に取り組む児童像がうかがえます。設問別正答率では、全 16 問中、3 問が全国正答率を上回りました。

領域別正答率では、本校の算数の正答率は 5 つの領域とも下回りました。「数と計算」では 2.6 ポイント、「図形」では 8.6 ポイント、「測定」では 8.1 ポイント、「変化と関係」では 5.9 ポイント、「データの活用」では 2.8 ポイントそれぞれ下回りました。「図形」「測定」「変化と関係」3 つの領域では、全国正答率を 5 ポイント以上下回っています。最も大きく下回ったのは「図形」の領域でした。



#### (2) 成果と課題

成果が見られたのは、4(1)「示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる」、3(4)「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる」設問です。これらは、全国・佐賀県の平均正答率をそれぞれ上回りました。

とくに課題が見られたのは、1(4)「条件に合う時刻を求めることができる」、2(1)「三角形の面積の求め方について理解している」設問で、全国正答率を10ポイント以上下回りました。その他、3(3)「データを二次元の表に分類することができる」、1(5)「速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる」、2(2)「複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる」、1(3)速さを求める除法の式と商の意味を理解している」、4(3)「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる」、2(3)「複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる」、3(5)「集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる」、4(2)商が1より小さくなる等分除の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる」設問にも課題があります。これらは、全国正答率をそれぞれ5ポイント以上下回りました。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 聴き合い活動を取り入れています。図・式・言葉を使って自他の考えを表現・想像し、つなげることで考えを広めたり、深めたりしています。
- 低・中・高に応じた問題提示を工夫しています。問題の中から解決に必要な情報を読み取る習慣をつけています。
- 各学年で振り返り(算数日記)のポイントを設定し、算数用語を使ったまとまった文字数の文章を書く指導をしています。
- 算数スキルタイム(週2回)の内容の充実を図り、基礎基本の力や活用する力をつけています。
- 式から答えを出すだけではなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたりしています。また、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにしています。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れています。自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めています。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めています。
- 一人一台学習用パソコンを活用し、一人ひとりの興味・関心や習熟度別に応じて、繰り返し学習して習熟を図ったり、発展的な問題にチャレンジして活用力をつけたりしています。

#### 【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

## 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

### (1) 結果 《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

| 調査項目                          | 本校 %  | 全国平均 % |
|-------------------------------|-------|--------|
| 朝食を毎日食べていますか。                 | 82.0% | 85.8%  |
| 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。            | 46.0% | 38.3%  |
| 毎日同じくらいの時刻に起きていますか。           | 60.0% | 55.0%  |
| 自分にはよいところがあると思いますか。           | 24.0% | 36.2%  |
| 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。     | 28.0% | 24.4%  |
| 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。          | 68.0% | 75.4%  |
| いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。 | 74.0% | 84.1%  |

朝食については全国平均をやや下回っていますが、起床については 5 ポイント、就寝については 12 ポイント上回っています。また、自尊感情や自己有用感が全国平均を 12 ポイント下回っています。挑戦心は全国平均をやや上回りますが、いじめを容認しない規範意識が全国平均に比べて 10 ポイント下回っていることは課題です。

#### 《家庭学習の様子》

| 調査の項目                                          | 本校%   | 全国平均 % |
|------------------------------------------------|-------|--------|
| 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。                          | 28.0% | 31.2%  |
| 学校の授業時間以外に、普段 1 日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3 時間以上」  | 8.0%  | 11.6%  |
| 「2 時間以上、3 時間より少ない」                             | 20.0% | 15.3%  |
| 「1 時間以上、2 時間より少ない」                             | 22.0% | 35.6%  |
| 「30 分以上、1 時間より少ない」                             | 34.0% | 24.5%  |
| 「30 分より少ない」                                    | 6.0%  | 9.5%   |
| 「全くしない」                                        | 10.0% | 3.5%   |
| 新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。 | 30.0% | 29.8%  |

計画的な家庭学習習慣については全国平均を 3.2 ポイント下回りました。勉強時間が 1 時間未満の児童が 5 割、また 1 割の児童は、全く家庭学習をしていないと回答しています。また、新型コロナウイルス感染症拡大に不安を持つ児童が 3 割に上ることも、大切な課題であるととらえています。

### (2) 改善に向けての取り組み

#### 【ご家庭では】

- 上記の家庭学習についての調査の項目は、改善を図ろうと年に 2 回、中学校のテスト期間に合わせて「家庭学習がんばり週間」でも取り上げている項目です。
- 低学年・中学年・高学年別に「家庭学習の手引き」を作成し、各家庭に配布しています。家庭学習の手引きをご覧ください。

### 【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習については、1年生から取り組んでいます。学年に応じて自主学習のメニューや取り組み方を指導しています。お手本になる自学ノートは、中央廊下に掲示しています。自学の掲示板を見ながら参考にする子どもたちもいて、定着してきています。
- 自他の良さを認める活動を取り入れています。「ありがとうの木」で友達のよいところを紹介したり、帰りの会等で友達のよいところを認め合う時間を設定したりしています。
- いじめを容認しない、また、規範意識を高める教育活動をあらゆる場面で取り入れています。毎月の生活アンケートや道徳の授業、人権集会等、日々の教育活動の中で、取り組んでいます。